

[異常時通報連絡の公表文 (様式 1 - 1)]

雑固体焼却設備排気ラインの伸縮継手部のひび割れについて

17. 5. 30
原子力安全対策推進監
(内線2352)

[異常の区分]

国への法律に基づく報告対象事象	有 ・ 無 [評価レベル -]	
県の公表区分	A ・ B ・ C	
外部への放射能の放出・漏えい	有 ・ 無 [漏えい量 -]	
異常の概要	発生日時	17年 5月30日 14時10分
	発生場所	1号・2号・3号・共用設備 管理区域内 ・ 管理区域外
	種類	・ 設備の故障、異常 ・ 地震、人身事故、その他

[異常の内容]

5月30日(月)15時00分、四国電力(株)から、別紙のとおり、伊方発電所の異常に係る通報連絡がありました。その概要は、次のとおりです。

- 1 5月30日(月)14時10分頃、停止中の雑固体焼却設備において、1次セラミックフィルタの入口ラインの伸縮継手部にひび割れがあることを保修員が確認した。
- 2 今後、詳細調査を実施する。
- 3 本事象による環境への放射能の影響はない。

その後、四国電力(株)から、

当該設備については、先週の運転開始前の予熱状態時に3基ある1次セラミックフィルタ入口部に若干温度差があったため、本日点検を実施したところ、1ヶ所のフィルタ入口ラインの伸縮継手部(直径約930mm、ステンレス製)に約125mmのひび割れを確認した。

なお、当該ライン内は負圧であることから、ひび割れ部から外部への排ガスの漏えいはない。

排気筒モニタ、建屋内の放射線モニタ及び継手部周辺の拭き取り試験において異常は認められていない。

との連絡があった。

県としては、八幡浜保健所の職員を伊方発電所に派遣し、現場の状況等を確認しております。

(伊方発電所及び周辺の状況)

原子炉の運転状況	1号機	運転中(出力101%)	・ 停止中
	2号機	運転中(出力101%)	・ 停止中
	3号機	運転中(出力103%)	・ 停止中
発電所の排気筒・放水口モニタ値の状況		通常値	・ 異常値
周辺環境放射線の状況		通常値	・ 異常値

(参考)

1 国への法律に基づく報告対象事象

核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律に基づき、国（経済産業省原子力安全・保安院等）に対し、一定レベル以上の事故・故障等を報告することが義務付けられている。

国への法律に基づく報告対象事象に該当すれば、国際原子力機関が定めた評価尺度に基づき、7から評価対象外までの9段階の評価レベルが示されるので、異常の程度を判断する目安となる。評価対象外以下のものについては、安全に関係しない事象とされている。

2 県の公表区分

区分	内 容
A	安全協定書第11条第2項第1号から第10号までに掲げる事態 （放射能の放出、原子炉の停止、出力抑制を伴う事故・故障、国への報告対象事象 等） 社会的影響が大きくなるおそれがあると認められる事態 （大きな地震の発生、救急車の出動要請、異常な音の発生 等） その他特に重要と認められる事態
B	管理区域内の設備の異常 発電所の運転・管理に関する重要な計器の機能低下、指示値の有意な変化 原子炉施設保安規定の運転上の制限が一時的に満足されないとき その他重要と認められる事態
C	区分A，B以外の事項

3 管理区域内・管理区域外

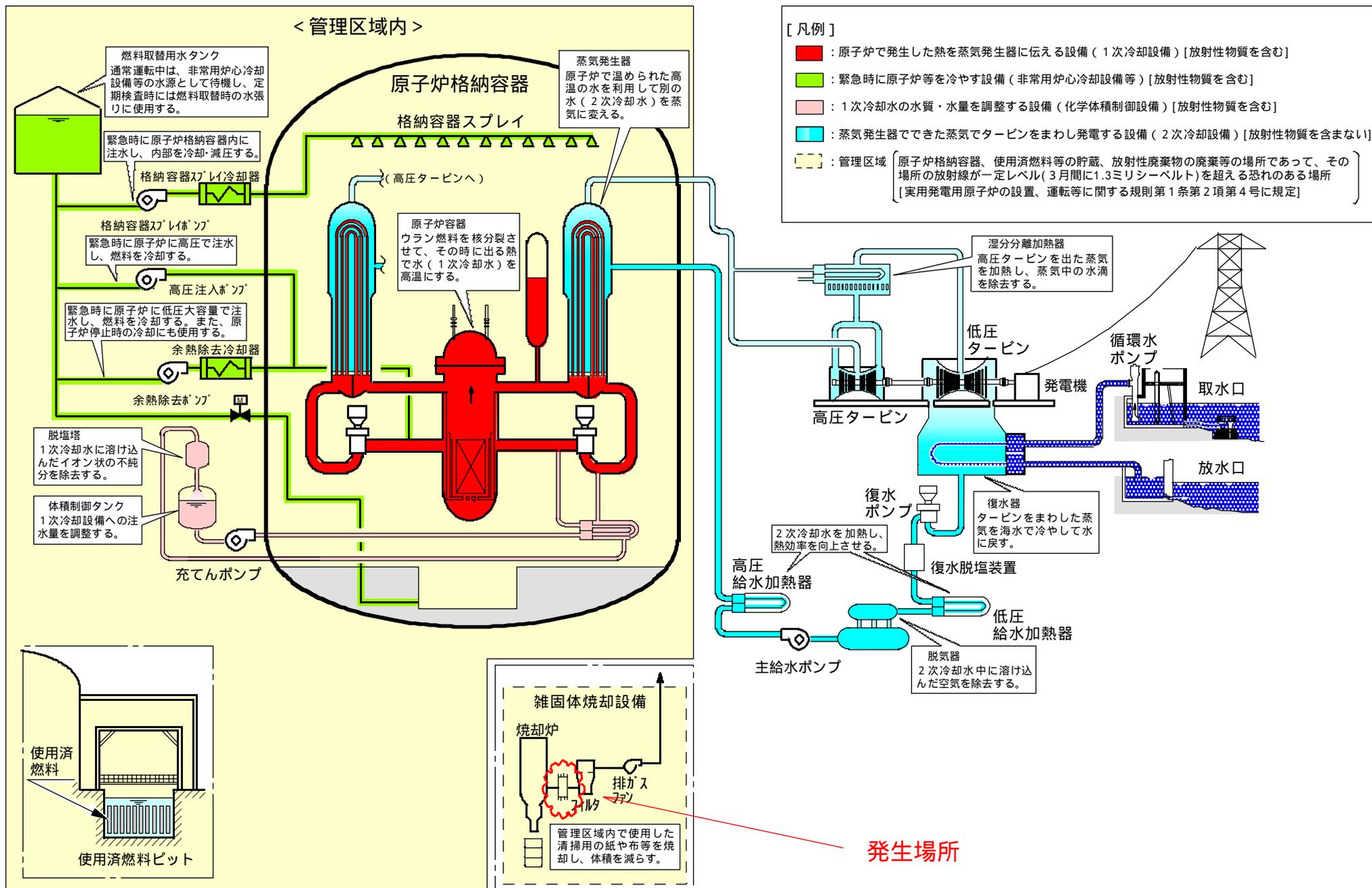
その場所に立ち入る人の被ばく管理等を適切に実施するため、一定レベル（3月間に1．3ミリシーベルト）を超える被ばくの可能性がある区域を法律で管理区域として定めている。原子炉格納容器内や核燃料、使用済燃料の貯蔵場所、放射能を含む一次冷却水の流れている系統の範囲、液体、気体、固体状の放射性廃棄物を貯蔵、処理廃棄する場所等が管理区域に該当する。

異常発生 の場所が管理区域の内か外かによって、異常の程度を判断する目安となる。

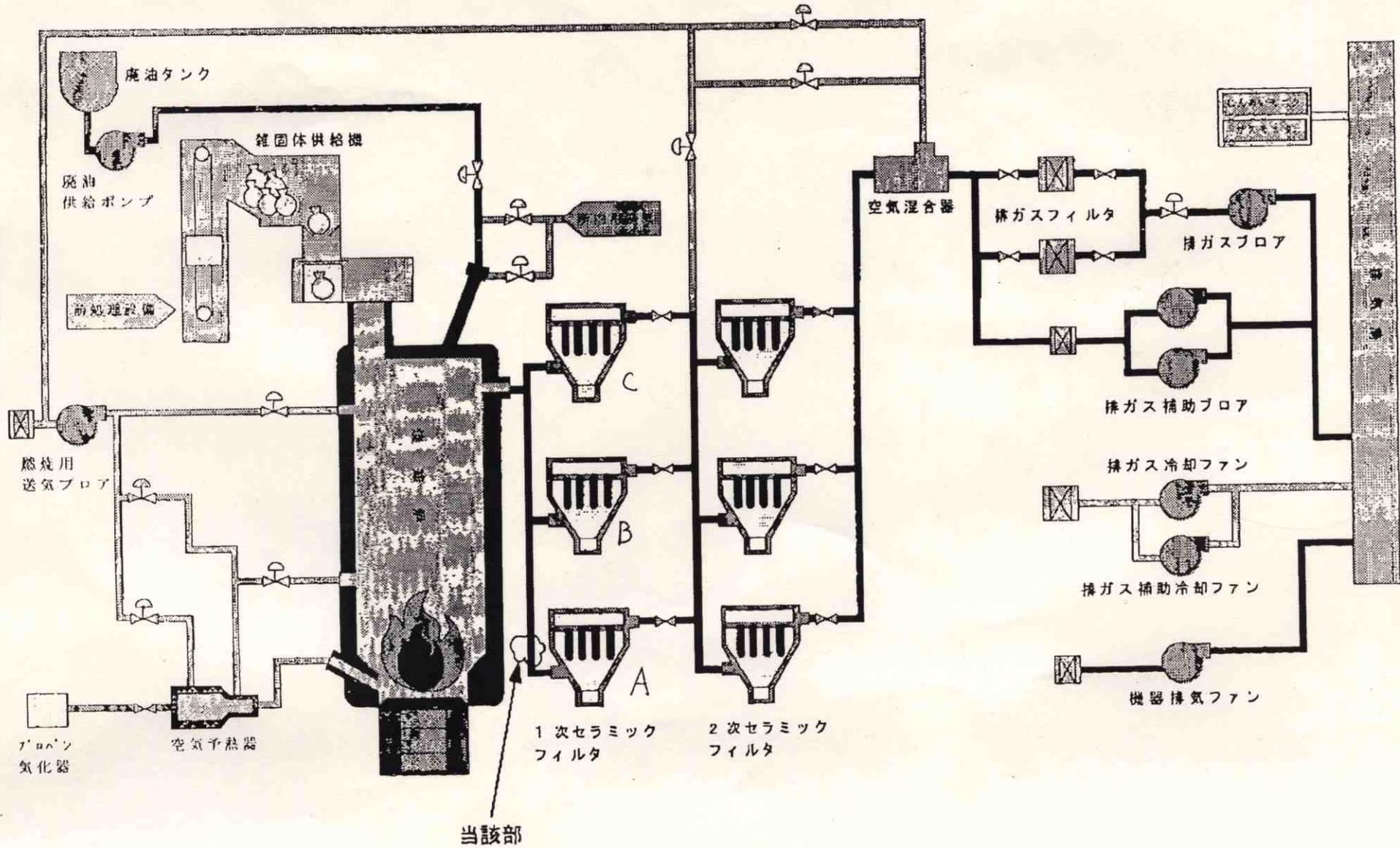
伊方発電所情報 (お知らせ)

発信年月日	平成17年 5月30日 (月) 15時00分	
発信者	伊方発電所 渡辺	
当該機	号機 (定格出力)	1号機(566MW)・2号機(566MW)・3号機(890MW)
	発生時 状況	1. 1号機 出力572MW、2号機 出力572MW、3号機 出力917MWにて (通常運転中・調整運転中・出力上昇中・出力降下中) 2. 第一回 定期検査中
発生状況 概要		設備トラブル・人身事故・地震・その他
		<p>1. 発生日時：5月30日 14時10分頃</p> <p>2. 場 所： 雑固体焼却炉建家 1階 (管理区域内)</p> <p>3. 状 況：</p> <p>伊方発電所 雑固体焼却設備は停止中のところ、本日14時10分頃、1次セラミックフィルタの入口ラインの伸縮継手部にひび割れがあることを保修員が確認しました。</p> <p>今後、詳細調査を実施することとします。</p> <p>なお、本事象による環境への放射能の影響はありません。</p>
運転状況		<p>1号機：通常運転中・調整運転中・出力上昇中・出力降下中・定検中</p> <p>2号機：通常運転中・調整運転中・出力上昇中・出力降下中・定検中</p> <p>3号機：通常運転中・調整運転中・出力上昇中・出力降下中・定検中</p>
備 考		

伊方発電所 基本系統図



雑固体焼却設備概略系統図





伸縮継手全景
(材質：ステンレス、直径：約 930mm、厚さ：1.2mm)



伸縮継手ひび割れ部

用語の解説

雑固体焼却設備

低レベル可燃性雑固体廃棄物の減容（灰化）のための焼却処理設備。排ガスはフィルタ等の高い除染率の排ガス処理系統で除塵され、放射線モニタで安全を確認しながら、排気筒より放出される。また、焼却炉内にたまる焼却灰は、ドラム缶に回収される。なお、系統内は、放射性排ガスの漏えいを防ぐため負圧に維持されている。

周辺環境放射線調査結果

(県環境放射線テレメータ装置により確認)

平成17年5月30日(月)

(単位：ナノグレイ/時)

測定局	時刻	測定値					平常の変動幅の最大値	
		13:50	14:00	14:10	14:20	14:30	降雨時	降雨時以外
愛媛県	モニタリングステーション	1.8	1.7	1.8	1.8	1.7	4.1	1.8
	九町モニタリングポスト	2.4	2.4	2.4	2.4	2.4	4.3	2.4
	湊浦モニタリングポスト	-	-	-	-	-	3.3	1.6
	伊方越 モニタリングポスト	2.1	2.1	2.1	2.1	2.0	3.7	2.1
	川永田 モニタリングポスト	-	-	-	-	-	4.2	2.6
	豊之浦 モニタリングポスト	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	3.6	1.5
	加周モニタリングポスト	2.3	2.3	2.4	2.4	2.4	3.6	2.0
	大成モニタリングポスト	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	3.5	2.4
四国電力(株)	モニタリングステーション	1.5	1.4	1.5	1.4	1.4	3.7	1.6
	モニタリングポストNo.1	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	4.1	1.6
	モニタリングポストNo.2	1.5	1.4	1.5	1.5	1.4	4.1	1.6
	モニタリングポストNo.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	4.1	1.5
	モニタリングポストNo.4	1.4	1.5	1.5	1.4	1.4	4.0	1.6

降雨の状況：有・無

(参考)

1 環境放射線の測定値は、降雨等の気象要因や自然条件の変化等により変動するので、原子力安全委員会の環境放射線モニタリング指針に基づき、測定値を「平常の変動幅」と比較して評価しています。

「平常の変動幅」は、過去2年間の測定値を統計処理した幅(平均値±標準偏差の3倍)としており、一般に、測定値が「平常の変動幅」の最大値以下であれば、問題のない測定値と判断されます。

2 環境放射線は線量(グレイ)で表されますが、一般的に、これに0.8を乗じて、人の被ばくの程度を表す線量(シーベルト)に換算しています。

例えば、九町モニタリングポスト(線量率59ナノグレイ/時)付近では、1年間に約0.4ミリシーベルト(ミリはナノの100万倍を表す)の自然放射線を受けることとなりますが、これは、胃のX線検診を1回受けた場合とほぼ同じ程度の量です。

(放射線量の例)

